

一人ひとりの夢・思いを大切に
福祉 しなふくニュース

編集人 しなふくニュース編集委員会 発行人 永田 元
 発行所 品川総合福祉センター 〒140-0003 東京都品川区八潮5-1-1
 電話 03(3790)4839 法人URL <http://www.shinafuku.com> E-mail info@shinafuku.org

世界アルツハイマー月間

～優しい地域を目指して～



本部ロビー装飾9月

夏の体験ボランティアに参加した中学生・高校生、かえで荘とかもめ園の利用者、ボランティアの作品です

らうんじ

猛暑と共に全国的にコロナ感染者が急増した七月のある日、利用者が四〇度を超える発熱と酸素飽和度が八〇%台に低下し、看護師と相談し救急隊を要請することにしました。通常なら、二〜三コールで「火事です

か。救急ですか」と応答がありますが、その日はなぜか応答がありません。番号を間違えたかな？と思っても一度。しかし、何度かけても応答なくコールだけが鳴り続け、時間の経過と共に焦りを感じ、ようやく繋がったのが二十五分後でした。この二十五分は命の重みを感じる時間でもあり、私たちの常識では「救急はすぐつながる、すぐ来てくれる」それが覆った出来事でした。その後、救急隊が到着し、利用者は無事に入院することができました。

コロナ禍では大変な状況下にあり、誰もが同じように辛い思いをしています。どの命も大事で、優先順位はつけられません。この現実を目の当たりにして、医療崩壊がすぐそこに迫っていることを実感し、同時に新型コロナウイルス感染症の終息を心から願いました。

かえで荘

濱本 幸子

夏の思い出

鮫洲なぎさの家

「カーン、カーン」この夏、通りを挟んだ鮫洲運動公園の球音が途切れる事はありません。なぎさの家も動きは止めない、手堅い夏でした。



リビングの窓から見える鮫洲運動公園からバットの快音が聞こえます

利用者の皆さんの毎日の生活を済ます等、工夫が必要とされました。恒例だった「夏のバーベキュー」は今年も開催を見送り、なぎさの家から徒

歩三分のファミレスで、くつろいだ時間を過ごしました。コロナ禍の定番となったテイクアウトも、猛暑のためか一番人気はカツカレー、二番人気はにぎり寿司です。

そんな中、利用者、職員がコロナに感染し、共同生活施設の限界に苦慮しましたが、重症化は回避されましたが、息となりました。なぎさの家では、初めての体験でした。

夕食は皆が顔を合わせて頂きます。「24時間テレビ」のTシャツがまだ沢山あったと誰かが話しています。

誰かの「これ美味しいです」という呟きが聞こえてきます。いつもの食卓、六人の暮らしの中に、小さな幸せが詰まっています。

様々な変更、制限の中にあっても揺るがない強固な暮らしと人、その暮らし力に寄り添いたいと切に願っています。

地域活動支援センターでは、聴覚障害者への理解促進と手話の普及を目的に様々な講座を実施しています。

品川区では、令和三年七月に品川区手話言語条例が制定されたこともあり、今年度初めて区内の小学生を対象とした「夏休み子ども向け手話体験講座」を七月・八月と二回実施しました。

「手話」は、手や指、顔や体の動きを用いて表現し、手話が必要とする人にとって大切な言語です。

講座当日は、聴覚障害者の好きな色を手話で表現してみよう

品川区障害者地域活動センター「逢

高島講師が子供たちの緊張をほぐそうと、鼻と耳を手で表現する「ぞうさんゲーム」を行いました。「ぞうさんゲーム」とは指された人が手でぞうの鼻を、その両隣の人が片手ずつでぞうの耳を作るという簡単なゲームで、スピードが速くなっても一生懸命表現をしていました。



自分の名前を手話で言えるかな？

その他に、自分の名前・好きな色・生まれた場所・誕生日などの基本的な手話を学び、夏休みの自由研究として、講師にインタビューをする子供もいました。

来年度以降も継続して手話体験講座を実施ができるという感じました。

八潮在宅サービスセンター

夏の思い出は？と聞かれると、何故か子供の頃の懐かしい情景が頭に浮かんできます。利用者にも尋ねてみると「金魚すくい」や「花火大会」などの答えが聞かれました。

コロナ禍で、楽しんでいただけられないイベントの企画が出来ない中、今年も品川区の清掃事務所より、とても立派な笹をいただきました。

午後の時間を使って作った色とりどりの輪飾りや提灯の七夕飾りの飾り付けをしました。短冊への願いは、健康に関連する事柄が多く、なかに



立派な笹をいただきました



暑い夏にはアイスですね

は「コロナ撲滅！」と書かれた短冊もありました。

また、今年の夏は三十五度を超える猛暑日が続く、とても暑かったと記憶しています。利用者も職員も、少しでも暑さが和らぐように涼を求める毎日が続きました。そんなある日、関東アイスクリーム協会からの寄贈で東京善意銀行が手配して下さったアイスクリームが届きました。皆様一緒に舌づつみを打ち、蒸し暑い中で食べる濃厚なミルク味のアイスは、ひとりひとりが笑顔になれる特別な時間になりました。

来年こそは皆様と目いっぱい暑い夏を心から楽しめたらと思います。

八潮北保育園

八潮北保育園は区から運営を受託後初めての夏を迎え、七月八日に「かもめ祭り（夏まつり）」を開催しました。

年長クラスの子ども達を作ったお神輿と三歳、四歳児クラスで作った山車で園舎周りを練り歩きました。

暑さに負けず「わっしょい！わっしょい！」と元気な掛け声が響く中、買い物帰りの地域の方も笑顔で見守ってくれました。

子ども達は朝から気合十分で、浴衣や甚平を着てくるなど華やかな雰囲気の中行うこ



皆で力を合わせて頑張りました



水遊びも真剣なまなざしです

とが出来ました。

七月からは水遊びを行って来ました。コロナの影響もあり、プールに水を張らないなどの感染症対策をしっかりと行いながら工夫して行っていました。子ども達は皆、全身で水の感触を味わいました。水が苦手な子もいますが、水がかからないようにその子なりに工夫して楽しんでいました。

今年の四月から気持ちを新たにスタートした八潮北保育園です。これからも職員一同力を合わせて、大人も子どもも素敵な思い出をたくさん作っていききたいと思えます。

新製品紹介

かもめ園身体部門では、活動の一つとして生産活動を実施しています。

平日の九時から十六時の間、活動登録されたご利用者が目の前の「できること」に集中し作業されています。活動内容はビーズアクセサリー



ハートの小物入れ (300円)

【ハートの小物入れ】

フェルトで編んだハート型の小袋をリニューアルしました。中にはポプリやコーヒージャラを入れたり、小物入れとしてもお使いいただけます。



2色のパール風ネックレス (1500円)

【二色のパール風ネックレス】

熟練ビーズ製作者が一つ一つ心をこめた約80cmの手作りリングネックレス。数量限定品です。

リー創作、トマト箱組み立て、タオルたたみ等で、売り上げの一部が工賃となり、生活の励みになっています。今回は、かもめ園イチオシの新製品を二つご紹介いたします。

本部売店「はなみずき」等で購入可能ですので、新製品と私たちの笑顔を見に、ぜひ足をお運びください。

リーダー会班活動④ しなふくニュース班

品川総合福祉センターには、リーダー会というリーダーによる月に一回の会議があります。現在は六班に分かれ、それぞれの活動を行いながら法人の事業向上のため奮闘しています。このコーナーでは、六回にわたって班の活動をご紹介します。

「しなふくニュース班」では年に四回（一月・四月・七月・十月）発行される品川総合福祉センターの広報誌「しなふくニュース」の編集、発行作業を行っています。

リーダー会の中で役割分担をし、発行計画、編集内容などを確認して、発行に向けて動き出すという流れになっています。記事の内容



法人の旬な情報、地域とのつながり等、情報満載です！

は法人の行事活動や各事業所の状況紹介、地域との連携など、幅広く法人を紹介しています。記事の内容によっては、編集委員が直接取材に動きまわります。昨年度は戸越銀座商店街の店舗に伺い、地域との繋がりもできました。

コロナ禍のためリーダーが一同に集まるのが難しくなっている状況ですが、オンラインでのリモート会議やメールなどを活用し編集や発行が滞ることがないよう工夫しています。

今後も品川総合福祉センターの様々な活動を紹介し、魅力ある広報誌を目標に、様々な角度・視点からの記事作成を行ってまいります。

法人の理念～「私たちの大切な価値観」

法人職員は法人の理念実現を目指し、日々の業務の中で「私たちの大切な価値観・3つのC ①利用者本位 (Customer) ②地域とともに (Community) ③挑戦する職員集団 (Challenge) を追求しています。このコーナーでは3つの視点を活かした奮闘や学びをご紹介します。

～相談支援専門員編～

法人の理念である「私たちの大切な価値観」の一つ「地域とともに」。この言葉はしなふく職員の名札にも添えてある言葉です。

相談支援・ケアマネジメン
ト業務において多職種連携による「チームアプローチ」は必須の専門技術です。

個々のニーズに応えた利用者支援には、法人内はもとよりその外側、地域の様々な支援者や機関との連携は欠かせません。実際、その繋がりが次第で効果が得られたり、画一的になつたりします。長年の相談支援業務で、訪問看護ヘルパー事業所、ケアマネジャー、保健師等多職種の仲間との出会いは利用者支援の場を共にする中で、いつでも繋がりがあえる存在になつていきました。

三人の進行性の難病を抱える家族を支えるBさん。本来であれば、医療や介護の支援が必要であるはずが、この困難な状況に苦しみながらも他者に疑心暗鬼になつており、

支援介入を拒んできました。担当職員は、家族が一緒にいるため、安心に導くためにBさんと向き合い、心から対話をする事を何度も試みましたが、実際は、うまく支援が進まない日々が続きました。そんな時、「あなたが、難しいケースでもどうかしたいと

ずっと考え続け、熱意を持つて行動してきたことで多職種を動かしている。支援者は、支援し続けることばかりでなく、利用者にかかれば

支障がなくなるように日頃から信頼関係を築いておくこと。これもプロの仕事」と、区のケースワーカーが声をかけてくれました。今でも相談員として背中を押す言葉の一つです。

また、地域の力を必要とする相談支援業務では、長期・短期間支援に関係なく、関わる方達には常に気持ちよく誠実に向き合うことを心に置いていきます。第一印象は怖く厳しい保健師も、本当は受入れ

定員限界のヘルパー事業所も、無理難題でも、「わかった、考えてみる」と言葉を添えて誠実に向き合ってくれます。多くのケースでは、法人も事業種も超え、意見交換や提案をしあい、ともに対応し続ける区内外の仲間は、まぎれもない「財産」です。「地域とともに」を実現する一つには、私たち法人内外の地域力、支援力をもった仲間の存在が不可欠であり、これからも「地域の仲間とともに」を追求していきます。

「一人ひとりの夢・思いを大切にします。人生の歩みの中で必要な福祉サービスを提供し、やすらぎ・活力・生きがいのある人生を支えます。

私たちは、3つのCを追求します。

Customer (利用者本位)
一人ひとりの尊厳を守り、利用者本位のサービスを全員が一体感を持って提供します。

Community (地域とともに)
地域とともに、様々な福祉ニーズを直視し、解決に努力しながら地域福祉の向上を図ります。

Challenge (挑戦する職員集団)
利用者と喜びを共有するために、法人に誇りを持ち、専門性・人間性を高め、新たな可能性に挑戦し続けます。

法人の理念(平成16年制定)	
「さらに信頼される法人を目指して」	
私たちの使命(ミッション)	一人ひとりの夢・思いを大切にします。人生の歩みの中で必要な福祉サービスを提供し、やすらぎ・活力・生きがいのある人生を支えます。
私たちの目指す姿(ビジョン)	地域の福祉ネットワークの核として貢献し、信頼される法人を目指します。
私たちの大切な価値観(バリュー)	私たちは、3つのCを追求します。
	Customer (利用者本位) 一人ひとりの尊厳を守り、利用者本位のサービスを全員が一体感を持って提供します。
	Community (地域とともに) 地域とともに、様々な福祉ニーズを直視し、解決に努力しながら地域福祉の向上を図ります。
	Challenge (挑戦する職員集団) 利用者と喜びを共有するために、法人に誇りを持ち、専門性・人間性を高め、新たな可能性に挑戦し続けます。

品川総合福祉センターの理念
「さらに信頼される法人を目指して」

ハロウィンの はじまりって？

年々日本でも大きな盛りあがりを見せているのがハロウィン。その起源はなんと二千年以上も前のこと。現在

のアイランド島にあたる場所に暮らしていた古代ケルト民族の儀式、「サフィン祭」であると言われて

います。古代ケルトでは十一月一日を新年とし、大晦日にあたる十月三十一日は、死者の魂が家族に会いに来ると考えられていました。しかしその際に、悪霊も一緒に来ると信じられていました。作物に悪さをしたり、子どもたちをさらったり、人間に悪運をもたらす悪霊から身を守るために始まったのが「仮装」です。魔女やドラキュラなど、恐

豆知識

ろしい怪物やお化けに仮装することで、災いを避け、逆に怖がらせて追い払う「魔除け」の意味があるのです。

さて、ハロウィンといえば仮装以外にも、カボチャを使った料理で楽しめる人も多い

と思います。カボチャは冬至に食べると風邪を引かないと言われるように、野菜の中でもトップクラスの栄養を持っています。ビタミン類や食物繊維など、バランスよく含有しています。

カボチャ料理や、飾り付けをすることで、家庭でも行事を楽しむことができます。栄養

たっぷりのカボチャを食べて、健康に冬を乗り切りましょう。



令和四年度「心のつながり 地域とともに」のお知らせ

十月に開催を予定して

いた「しなふく紅葉フェスタ」

は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止する

こといたしました。

法人では「心のつながり地域とともに2022」を開催致します。

日時…十月二十三日(日)

10時～12時

場所…品川総合福祉センター

駐車場

当日、来場し法人へのメッセージをくださった方へちよつとしたプレゼントを差し上げます。

と、無機質な施設の壁面も素敵な色彩が加わり、華やかにしてくれま

す。利用者だけではなく、職員にも心潤うひとときをくれます。何気なく通り過ぎる場所ですが、一瞬足をとめてみてはいかがでしょうか。

しなふくの窓

このコーナーは、普段は目に留まりにくい「素敵なもの」を紹介するコーナーです。かえで荘には、季節の彩りを装飾している場所があります。担当しているのは、前職でデザイン系のお仕事をしていた職員で、ボランティアとして活動してくれています。自宅で季節の花を飾って生活の潤いを持つのが同じように、季節ごとにイラストやイメージカラーを考えて装飾する



昭和レトロ感たっぷりの絵画装飾 毎回違うテイストにセンスが光っています